

2019年8月25日発行

地域と協同の 180号

研究センターNEWS

【巻頭言】

地域と協同の研究センター 思い出、そして期待と

地域と協同の研究センターが発足して25年（法人化20年）、長いようでアツという間の四半世紀です。それもそのはず、私が所属していた「みかわ市民生協（名勤生協と合併し現コープあいちに）」も、この春に設立45年を迎えたわけですから。そこで、研究センター発足の思い出話と未来に向かっての思い・期待を発信させていただきます。

八木 憲一郎（コープあいち元副理事長）

1. 地域と協同の研究センター発足の頃のこと——思い出

東海3県の5生協（コープぎふ・みえきた・三重県民・めいきん・みかわ）の一員として、私も設立準備から発足、そして法人化と、研究センターの運営に関わっていました。1994年夏から秋にかけての頃、生協生活文化会館の一室で研究組織の名称を検討しました。最終的に「研究センターか研究所か」が議論になりました。全国の生協でも研究所づくりがすすめられている時期でした。「センターでは何となく軽くはないか」「むしろ重くない方がいいのでは」など、様々な意見が出されたことを記憶しています。私は漠然と「研究所がいいかな」と思っていたが、「地域と協同の専門家である学者・研究者のための研究の場ではなく、地域と協同の活動や研究をしている市民・組合員・研究者が集い、学び、研究しあい、情報発信する場、『センター』が東海地区らしいのではないか」という、初代センター長となる野原敏雄先生のお話に、自分の考えの浅さ・狭さに気づかされたことを思い出します。「話し合い、知り、学び、そしてまた話し合う」という組合員活動の基本を体験（感）した貴重な場でした。そんなことを思い出しながら、定款第3条を読み返してみました。

（目的）この法人は、非営利、協同の事業に関心をもつ市民、団体を対象として、地域におけるくらし、労働、コミュニティの向上および協同活動の発展を目的とする学習、研修、情報交流および調査研究の実施または実施の支援を行い、もって地域と協同活動の持続可能な発展に寄与することを目的とする。

【2頁につづく】

CONTENTS		8月の研究センター活動	
1	【巻頭言】地域と協同の研究センター 思い出、そして期待と 八木 憲一郎（コープあいち元副理事長）	1日(木)	三重地域懇談会世話人会
3	市民が協働を学ぶ講座の第2ステップ～市民協働サポーター 第1回フィールドワーク：愛知県設楽町「設楽福祉村キラリンとーぶ」	3日(土)	共同購入マイスター②
4	岐阜地域懇談会「プチフォーラム IN 岐阜～いま岐阜でおこっていること」	5日(月)	アジアの平和、食と文化フェア拡大実行委員会
5	協同組合間連携を考える～コープあいち、大学生協事業連 合東海地区間の人事交流を通して	8日(木)	組合員理事ゼミナール世話人会
6	情報クリップ	9日(金)	第3回常任理事会10日(土)
8	企画案内・9月の予定	17日(土)	尾張地域懇談会世話人会
		19日(月)	NEWS編集委員会
		20日(火)	三河地域懇談会世話人会
		21日(水)	研究フォーラム環境世話人会
		23日(金)	協同の未来塾③
		27日(火)	岐阜地域懇談会世話人会
		29日(木)	愛知の協同組合間協同相談会
		31日(土)	共同購入マイスター③

【巻頭言】地域と協同の研究センター 思い出、そして期待と、1頁より

2. 今、一人ひとりが持続可能な開発目標について考え行動する時——思い

2019年度計画の基調にあるように、世界の協同組織はじめ東海の協同組合では、SDGsへの取り組みが進められています。私も、個人として「3. すべての人に健康と福祉を」「11. 住み続けられるまちづくりを」「16. 平和と公正をすべての人に」の3つのゴールを意識しながら生活しています。

この3つを選んだ理由は、みかわ市民生協・コープあいちで仕事をして45年、多くの先輩から教えられた「平和とよりよい生活のために」のメッセージを、もう半歩でも前に進めたいと考えるからです。

21世紀の今、ますます平和と公正が求められる時代になりました。食の安全安心と健康をめざす運動・事業は、心と体の健康とふだんのくらしのしあわせをめざして取り組まれています。そして、この取り組みは、いつまでも住み続けられる地域づくり・まちづくりをめざす協働へと広がっています。このような現状への思いをこめて、私は3つの目標を選びましたが、地域と協同の研究センターへの社会的な期待は今後ますます大きくなるのではないのでしょうか。

3. これからは地域、まちづくりの視点が重要——期待

地域の活動、地縁を基礎にした住民の活動に参加すると、地域ごとの違いや地域の変化に気づかされます。田舎にいけばいくほど、血縁・地縁が地域の活動に色濃く反映しており、自発的な参加を基礎にした生協組合員の活動、組織運営との違いに戸惑ったりします。数年前に南医療生協総代会でお聞きした「血縁・地縁から『しえん（支援・志縁）』へ」という理事長のお話が、今になって新鮮に蘇ってきます。地域の組合員組織・組合員活動は志縁そのものであり、研究センターに集い、研究センターが発する「縁し」も「志し」だと思います。そんな「志」の眼で地域を見ると、思いでつながり、協働を通じて展望を切り開こうとしている女性や若者の姿が見えてきます。また、そんな変化を見て、支持し、応援する地縁社会のリーダーの姿も見えてきます。都会よりも『便利』かもしれない田舎のくらしが見えてきます。地域づくりの活動では、支えあう地域の人と組織、例えば農協や生協であり、地元の企業、ボランティア団体、あるいは行政・学校やPTAなどなど、世代間の距離を縮めよう、思いをバトン（たすき）に託してつないでいこう、という新しい動きが始まっています。そこでは、「話し合い、知り、学び、そしてまた話し合う」という営みが辛抱強く行われています。

このような変化を見ていると、ますます地域・くらし・まちづくりに自発的に取り組む人と活動と組織と、それらを支援する取り組みと組織が必要だと気づかされます。団塊の世代、団塊ジュニア世代、ゆとり世代など、世代間の断絶を超えて、市民生協の創設に参加した市民（組合員）から次の世代、そしてその次の若い世代（組合員）へと“協同のバトン（志＝たすき）”をリレーする活動が重要だと思います。研究センターには、そんな新しい時代の幕を開けるための活動（支援）が期待されているのではないのでしょうか。

○ まちづくりのフィールドは市民・消費者がくらししている地域です。新しい時代を見通し、新しい時代の協同（協働）を創り出す場、いってみれば“新しい時代の協働のあるまちづくり教室”のような地域の場づくりに取り組んではどうでしょうか。市民が地域・地域で協働し、実践した成果や教訓を持ち寄り、話し合い、学びあい、次の実践に生かしあえる場づくりに、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

○ 研究センターとして地域コミュニティへの情報発信機能を充実させ、強めてはどうでしょうか。そのためにも、地域と協同の研究センターに蓄積された「地域と協同活動の持続可能な発展」に役立つ経験・情報や学びを集め、発信する専門家と実務実践者を育てることに取り組んではどうでしょうか。

こんな期待を持ちつつ、地域と協同の研究センターのよりよい発展を願っています。

（やぎ けんいちろう）

市民が協働を学ぶ講座の第2ステップ「市民協働サポーター第1回フィールドワーク」 講座講師の実践に実際に触れる 愛知県設楽町「設楽福祉村キラリンとーぷ」



研究センター事務局・渡辺 勝弘

遅かった梅雨明けから約1週間後の8月5日（月）、2018年に実施した「市民が協働を学ぶ講座・市民協働サポーター」と愛知県設楽町「設楽福祉村キラリンとーぷ（同町東納庫松山）」を訪ねました。

「同講座」は2018年から新しく加わった研究センター事業。10月5日から修了回の2019年3月1日まで7日程、10人の講師から各地での市民協働の実践についてお話をお聞きし、「実践の意味」をグループワークで深めました。修了回では10回の講座のうち、6講座以上の受講者18名が「市民協働サポーター」の認証を受けました。

市民講座運営委員会では同講座を「4つのステップ」で組み立て。今回は第2ステップ「実践に触れる」としてフィールドワークを実施しました。訪れたのは第6回のテーマ「人口減少社会と協同」で午前講座の講師をお引受けいただいた「社会福祉法人ゆたか福祉会・生活サポートセンター名倉」の篠原豊郷さん（ご夫妻）。標高約650メートルの地で市民協働サポーターが触れた実践を紹介します。

■設楽福祉村キラリンとーぷ

午後：所長の荒川元仁さんより同施設の概要説明を受け、施設内を見学。敷地面積約1万坪。障害者支援施設として1998年10月に「第2ゆたか希望の家」、1999年8月に「グループハウスなぐら」、2006年10月に「デイサービスなぐら」を開所。①小舎制個室（すべての居室が個室）、②職住分離（生活と活動を区分してメリハリをつけた生き活きた暮らし）を大切にしてきた。

地域（設楽町住民）とのつながりが生まれ始めたのは「生活サポートセンター名倉」の機能が備わった頃から。ゆたか福祉会が地域の福祉ニーズにこたえるため地域ふれあいサロンや未就園児ママ友の会などの運営協力を始め、「キラリンとーぷ」が地域の困りごと解決・困ったときの相談先のひとつになっていた。

■いなぶ健康アカデミー「名倉ふれあいサロン（キラキラサロン）」

午前10時過ぎ、「設楽福祉村キラリンとーぷ・地域交流センター」に到着。設楽町の住民6名とともに、篠原さんも受講者の一人として「キラキラサロン」に参加中。

サロンで参加者が気づくは「自分の体の痛みの意味を知り、ゆっくりとした運動で痛みを和らげること」の大切さ。講師の「いなぶ健康アカデミー代表・永井雄大先生」は「地域づくりには『健康維持』が大事」という。そのための目当てとして「①人付き合い、②よく動く、③魚や肉を食べる」をあげた。よく動く（運動）はゆったりとした運動で身体のある筋力を鍛えること。この日は自転車のチュ

ーブを展開したようなゴムを両手で持ち、左右にゆっくり広げる運動。4～5回やると体の芯がポカポカしてきた。

今回の訪問で「生活サポートセンター名倉」篠原豊郷さんには10時～3時まで見学、懇談など時間を割いていただきました。ありがとうございました。

■参加した市民協働サポーター・神田すみれさんより

荒井所長のお話は、社会のニーズに応えるべく新たな課題に取り組み、それを社会に提示している事例だった。そして、協同組合原則を私の中で照らし合せてお話を伺った。

足助病院の仲間で「いなぶ健康アカデミー」を立ち上げた永井先生の取り組みは、プライマリヘルスケアそのもの。奥三河や中山間地域でのプライマリヘルスケアの取り組みは今後高齢化、人口減少が進む社会でますます必要となると感じた。

■この秋には…

岐阜県白川町のフィールドワークを検討中。また、「市民が協働を学ぶ講座」の開設地域も相談中です。



◆篠原さんご夫妻（前列左のお二人）と記念撮影
（わたなべ・かつひろ）

「いま岐阜でおこっていること」小さな事業所の大きな挑戦

「プチフォーラム IN 岐阜」2019年7月20日（岐阜地域懇談会主催）

2月16日（土）『よりよい“暮らし”をつくる地域のつながり！～小さなつながりから未来を拓く大きな力を育む～』と題して、地域と協同の研究センター第15回東海交流フォーラムがおこなわれました。人と人とのつながりを考えさせられる「ひなたぼっこ」大橋さんの報告を聞くことができました。このお話を「コープぎふのみなさんにぜひ聞いてほしい！！」との思いから、岐阜地域懇談会の主催で7月20日、コープぎふ本部にてプチフォーラムを開催しました。参加者は、30名。「モデルのないことをやろうとしている」という言葉は、かつて岐阜県に生協を創ろうとしたと先人たちの心意気感じられるお話でした。

（1）小さな事業所の大きな挑戦

認定NPO法人ひなたぼっこ 大橋利恵子氏

この大きな挑戦をしている小さな事業所のスローガンは「ゆったり のんびり あったかサービス ひなたぼっこみんなで運営 みんなで資金 みんなで働く 語り合おう 福祉の地域づくり 新しい時代の 新しい働き方」。ひなたぼっこは、中津川市蛭川にある高齢者・障がい者在宅支援を行う認定NPO法人です。あったかサービス、みんなで運営、みんなで資金、みんなで働くってどういうことか？ デイサービス一日の過ごし方…ひなたぼっこで働くみなさんが話し合っただけです。その人（利用者）らしい暮らしができるように、「当事者（利用者）の心の声を聴く」ことから、毎日の暮らしが創りあげられています。そして、みんなで働く、そこには、障がいのある人への賃金差別はありません。法人の運営（経営）に、全職員が参加することをめざして、職員会議と運営会議に参加し重要事項を話し合っています。

事業実績、収支決算書、寄付、会費など経理情報を全員へ配布し、給与・一時金・手当など全員で決めています。2年前、自分たちの手で就業規則を作りました。私たちのしようとしていることは、モデルのないこと、解決の方法も自分たちで作らなければなりません。

【参加者の感想】

- 利用者の主体性を大事にすると職員の負担は増えるが、それを丁寧に行っているデイサービスやグループホームがあるだけでも素晴らしいのに、障害がある人の就労での賃金に差がないことにおどろいた。後の説明で賃金を同じにすることで、人としてお互いに認め合えるようになっていくということ、素晴らしいことだと思った。
- ひなたぼっこさんの取り組みはすごく勇気があることだと思うが、問題が起こっても、丁寧に話し合う姿勢がすごいと思った。

（2）飛騨市「みんなよらまいか！」連携の取り組み—「生協とやる」

コープぎふ 暮らしの活動部 飛騨圏域担当 松原 滋氏

はじめは飛騨市地域包括ケア課の来訪…「生協さん、富山県境地域へも商品を届けてもらえないでしょうか？」飛騨市の現状—JA店舗が多数閉鎖され、ガソリンスタンドもなくなる。行政が移動販売車の支援を検討。生協から提案したことは、『買い物+地域サロンの場』生協の買い物インフラとおたがいさまひだのサロンの運営の合体。サロンに集って買い物をすることで共同購入の仕組みの煩雑さも軽減—細かくて見づらいOCR注文用紙 分厚い商品案内は高齢者にとって、高いハードル—商品を介した「くらしの交流」が期待できます。飛騨市+コープぎふ連携事業「地域複合サロン」として、実証実験を3回行い、以降地域自主グループによる運営を目指しました。サロン会場には、JA販売車と生協配達車、手作りパン屋さんや洋品屋さんも、みんなで合唱・脳トレ・健康体操は毎回実施、イベントを行うサロンは月一回です。内容はうちわづくり、小学生との交流など多岐にわたります。地域バス「ひだまる」の運営に合わせた時間設定で。このサロンの取り組みは他の地域にも広がりを見せています。これからは、「生協がやる」でも、「生協でやる」でもなく、「生協とやる」方向にきている、生協の役割はジョイント的なものと考えています。

【参加者の感想】生協が地域から必要とされているってことがよくわかった。松原さんの行動力はすごい。「おたがいさまひだ」があり、行政からの要請からともうまくつながって、松原さんは楽しく報告してくださったが、多くの苦労があったでしょうね。生協の原点に立ち返ったような…大昔、生協に加入していた時のようなことを思い出しました。人間関係、人間味、つながりということがよくわかりました。

※研究センター第2回公開セミナー（19年4月8日/コープあいち生協生活文化会館）を「いま岐阜でおこっていること」として共有しました。

報告：井貝順子（いけい・じゅんこ。岐阜地域懇談会世話人）

協同組合間連携を考える —コープあいち、大学生協事業連合東海地区間の人事交流を通して—
コープあいち、大学生協事業連合東海地区から人事交流のため出向しているおふたりの若い職員が、**2019 国際協同組合デー記念行事 in 愛知 (7 月 8 日/JA あいちビル)** に参加されました。そこでおふたりに協同組合間連携についてご寄稿いただきました。

協同組合間のつながり

大学生協事業連合東海地区 事業推進部 学び成長・体験支援グループ **原田智巴** (はらだともえ)
昨年、今年と記念行事に参加させて頂き、昨年度は協同組合間連携の取り組みである、協働・夢プロジェクトのインターンシップの事務局として、大学生と一緒に自分自身も、他生協の事業活動や連携の取り組みを知る機会、学ぶ機会をたくさん頂きました。他生協との繋がりや連携している取り組みについて、恥ずかしながら知らないことが多くありましたが、他生協・協同組合を知る中で、組織単独で出来ないことも協同することで解決できることがまだまだあるだろうという可能性を感じる事ができました。

今思い返すと、コープあいちでこんな経験がありました。組合員さんと「南生協病院に行ってきたよ」「うちの娘が大学生協の購買にミルクプリンがあって大喜びでね」とお話をしましたが、私自身、出身大学に大学生協がなく、大学生協についてほとんど知りませんでしたし、南医療生協のことを聞かれても答えることができませんでした。しかし、組合員からするとこの生協も生協であり、組織は違えど同じ“生活協同組合”。別組織とはいえ目指すものは同じ協同組合として、まずは協同組合で働く職員が他生協・協同組合について知ることが必要ではないかと、当時を振り返り今改めて感じました。

協同組合間連携を進めていく為にもまずはお互いを知ることが大事で、繋がりを深めていく為にも、この人事交流が今後も続いていくといいなと思います。今回、出向という貴重な経験の機会を頂き、この経験が自分の学びになるだけでなく、少しでも何かの役に立てるよう、大学生協でより多くのことを学び吸収していきたいと思っています。

意識した協同組合間連携の可能性

生活協同組合 コープあいち 商品・組合員活動支援部 **奥村リエ** (おくむらりえ)

大学生時代の学生委員会を通して、初めて協同組合を知りました。特に共済制度の「加入者同士でたすけあう」「自分の危険は他人の危険として伝え予防を呼びかける」点に共感して生涯をとおしてかかわりたいと思い、大学生協へ入協しました。現在は人事交流の一環でコープあいちへ出向し、商品・組合員活動に関わる部署で働いています。

今回の記念行事に参加して、多くの協同組合が地域に存在していることを改めて認識しました。社会情勢の変化に伴い、地域では様々な問題、課題を抱えていると感じましたが、ただ単に支援を行う形ではなく、それぞれの地域の人や自治会などと一緒にあって、地域の課題を捉えていくことが大切と感じました。

できることできないことはあるとは思いますが、地域の「困った」をそれぞれの視点から、どのようなことが必要なのか？できるのか？など地域の方と一緒にあって共有していくことが最初の一步になると思います。

組織との連携は、それぞれ組織の成り立ちも違い、すぐに形には繋がりませんが、それぞれが積み重ねてきた知恵や経験を出し合って、地域の人が中心となった活動を一緒に支えていけるよう努力したいと思います。

つながりが広がることで、自分たちの組織を地域の方に知ってもらうきっかけにもなり、それぞれの組織のひろがりにも繋がっていくのではないのでしょうか？これから、職員・組合員・取引先と関わる機会に積極的に参加し、活動や事業に関わる中で、理解を深め取り組んでいきます。

情報クリップ



NAVI 2019.8 No.809

CO・OP 共済で応援！誰もが暮らしやすい地域社会づくり

日本生活協同組合連合会 2019年8月、A4判、36頁、360円

特集 CO・OP 共済で応援！

誰もが暮らしやすい地域社会づくり

- <コープのある風景> みやぎ生協
- <今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見>
コープおきなわ 島根紫月さん
- <想いをかたちにコープ商品>
CO・OPフリーリア
- <生協大好きママ コプ山さんの 教えて！CO・OP商品>
CO・OP野菜たっぷり和風ドレッシングにわさび
- <ZOOM IN 生協の店舗づくり>
いわて生協 コープ花巻あうる
- <暮らし丸ごと応援！コープの事業>
エフコープ (農業生産事業)

- <組合員さんが語る私の生協ライフ>
コープしが
- <世界と日本の協同組合>
信用金庫
- <日本全国 宅配現場におじゃまします！>
コープデリ連合会 コープみらい
- <いつでもどこでも 地域とくらしを支えます>
コープあきた
- <明日のくらし ささえあう CO・OP共済>
第21回近畿ブロックCO・OP共済交流会
- <この人に聴きたい>
障害者クロスカントリースキー選手 川除大輝さん
- <ほっと navi> ならコープ コープCS ネット

月刊JA 2019.8 vol.774

全国農業協同組合中央会 2019年8月、A4判、48頁、年間予約5,156円(消費税込)

スゴイ農業、スゴイJA

JA自己改革の現場から

- 利用者一人一人が主体的に過ごす居心地の良い時間と空間
- JA柏崎 (新潟県) 中通デイサービスセンターの実践
郡山雅史
- JA・農政トピック
- 中央協同組合学園・JA経営マスターコース
- 開校から50年の歩みを振り返る

きずな春秋—協同のこころ—

私のオピニオン

クリエイターの食と農

展望 JAの進むべき道

わが国の優良な種子を守るために

金井 健 (JA全中常務理事)

協同組合とSDGs 第5回

「もったいない」の取り組み (食品ロス・食料廃棄について)

宮川麻之

ラグビーワールドカップが開幕！

ラグビーならではの雰囲気味わって

RWCで地域のレガシーを

松瀬 学

海外だより [D.C.通信] 連載99

貿易摩擦と自然災害に苦しむアメリカ農業者

伊澤 岳

第32回 広報活動優良JA紹介

組合員向け広報誌の部

優秀賞/JAいるま野 (埼玉県)

地域密着型広報活動の部

優秀賞/JAあいら (鹿児島県)

生活協同組合研究 2019.8 No.523

「シェアリングエコノミー」を学ぶ

公益財団法人 生協総合研究所 2019年8月 B5判 60頁

■ 巻頭言

社会的養護のもとで育った子どもたちの独り立ちを
応援する 宮本みち子

特集 「シェアリングエコノミー」を学ぶ

概説

日本におけるシェアリングエコノミーの現在

市川拓也

ヨーロッパにおけるシェアリングエコノミーをめぐる
議論と近年の状況 穂鷹知美

新法施行から1年余り、日本の民泊はどこへ行く

高田 泰

シェアリングエコノミーに懸念される労働問題

山崎 憲

韓国・ソウル市における

シェアリング・サービスの進展

鄭 城尤

コラム

シェアリングエコノミーの国内事例の現況

鈴木 岳

- 連載 フォーカス くらしと社会の最新情報⑤
問われる大学医学部入試における女性等への差別
—消費者団体訴訟の取り組み—
磯部浩一
- 連載 協同組合系研究所の逐次刊行物より⑤
『農中総研 調査と情報』(『農中総研情報』)
鈴木 岳
- 本誌特集を読んで (2019.6)
勝又博三・樫原弘志

- 理事長交代あいさつ
- 第 29 回全国研究集会 (10/5)
- 公開研究会
「吉野共生プロジェクト」(8/20・東京)
「欧州における有機農業と消費者のつながり」(仮)
(9/27・東京)
「大学生の読書を考える」(10/12・名古屋)
- 生協総研レポート No.90
「生協共済研究会 2016 年度—2018 年度の活動」

文化連情報 2019.8 No.497
介護保険制度の 20 年を考える 多世代交流拠点としてのこども食堂
 日本文化厚生農業協同組合連合会 2019 年 8 月、A4 判、72 頁、文化連情報編集部 03-3370-2529*注

- | | |
|--|--|
| <p>農協組合長インタビュー (58)
自ら考え行動できる職員を育てたい 前田孝幸
文化連「第 8 次中期事業計画」最終年度における
“会員の声を聴き共有する活動”の実践報告
伊藤幸夫</p> <p>院長リレーインタビュー (313)
患者とのパートナーシップを大切にする
組織文化づくり
奥村明彦</p> <p>一門さんのことば (最終回)
苦闘の歴史を物語にするな 佐治 実
インタビュー</p> <p>介護保険制度の 20 年を考える (1)
介護保険制度のファイナンス 堤 修三
多世代交流拠点としてのこども食堂 湯浅 誠
第 6 回西日本厚生連看護部長ブロック交流会
上田幸子</p> <p>協同組合としての厚生連
～新しい職員の皆さんを迎えて考える(下)
東 公敏</p> <p>第 5 回厚生連病院臨床研究研修会報告 酒井真弓
第 15 回厚生連医療機器・保守問題対策会議報告
水上祐揮</p> <p>多様な福祉レジームと海外人材 (17)
ベトナムの取り組み 安里和晃</p> | <p>臨床倫理メディエーション (36)
同意について (2) 中西淑美</p> <p>岡田玲一郎の間歇言 (156)
地方の中小病院 (Small Rural Hospital)
しっかり地域に貢献している条件は「いい医師」
岡田玲一郎</p> <p>野の風●東西の分かれ道
ラドスワフ・ノヴァク</p> <p>デンマーク&世界の地域居住 (123)
「福祉(総合事業)で地域づくり」に取り組む
(山口県萩市 2)</p> <p>熱帯の自然誌 (41) 事故に遭う 松岡洋子
イギリスの病院 (12) 安間繁樹</p> <p>NHS North East Leadership Academy (2)
NHS の構造・従事者・未来
小磯 明</p> <p>□書籍紹介
医療・福祉と人権/伊藤 敏
福祉原理
▶線路は続く (133)
山田線 東北最高所を目指す/西出健史
▶虹のかけ橋</p> |
|--|--|

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)を中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

令和元年度 まちづくり人材養成事業まちの元気の仕掛人

生涯学習「長良川大学」

子ども食堂の現状と課題

～誰にもとりこぼさせない社会～

講師：湯浅 誠氏

社会活動家、東京大学特任教授、全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長
 子どもの7人にひとりが貧困状態にある中、子どもの貧困対策と地域の交流拠点として全国で「子ども食堂」が開かれています。貧困・格差問題、そして子どもの食堂の支援と普及に取り組んでいる湯浅誠氏から、「子ども食堂」の現状や課題を学びます。

日時 9月12日(木) 午後2時～3時30分

会場 ハートフルスクエア-G 2F 大研修室

定員：50名(応募者多数の場合は抽選) 受講料：300円

応募方法：往復はがき(1枚につき1人)またはEメール(hsg08@ocn.aitai.ne.jp)

①講座名 ②〒・住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号を記入し、9月2日(月)(必着)までに下記へお申し込みください。直接申し込みの場合は返信用はがきをお持ちください

申込み・問い合わせ先 〒500-8521 岐阜市橋本町1-10-23 ハートフルスクエア-G内

岐阜市生涯学習センター 生涯学習係 TEL：058-268-1050

主催：岐阜市生涯学習センター(指定管理者：公益法人岐阜市教育文化振興事業団)

地域と協同の研究センター 9月の予定

1日(日)	「生協の未来のあり方研究会」第二次共著研究集会	18日(水)	三河地域懇談会世話人会
2日(月)	市民講座運営委員会、「協同の未来塾」検討会議	20日(金)	金城学院大学「協同組合論」①
4日(水)	第4回常任理事会	21日(土)	東海交流フォーラム第1回実行委員会※、第3回公開セミナー※
10日(火)	研究フォーラム食と農世話人会「松坂ベルファーム」フィールドワーク	24日(火)	名城大学「ボランティア入門」②
11日(水)	金城学院大学「協同組合論」開講相談会	27日(金)	協同の未来塾④神戸① 金城学院大学「協同組合論」②
13日(金)	組合員理事ゼミナール⑥	28日(土)	協同の未来塾④神戸②
16日(月)	NEWS編集委員会	29日(日)	2019協同集会在東海※
17日(火)	名城大学「ボランティア入門」①	30日(月)	尾張地域懇談会世話人会

【同封企画のご案内】

- ※印の21日・東海交流フォーラム実行委員会、同・第3回公開セミナー、29日・2019協同集会在東海は同封のチラシでもご案内しています。
- 「大学生の読書を考える：生協総合研究所 公開研究会／10月12日(右写真のご案内)」は研究センターとして後援しており、研究センター会員の参加費は無料です。
お申し込み時に、地域と協同の研究センター会員とお伝えください。

